地理院地図の学習会も

## JpGUで地理院地図の学習会

昨秋は磐梯川で慶長舎津地農の巡検。

春のJpGUには、日本中のジ オパーク関係者が集まって、 新規認定申請地域のプレゼン 審査などが行われます。ジオ パーク支援委ではこの機会を 生かし、2019年5月27日に、各 地のジオパークの専門員らを 対象に、「ジオパーク活動で使 える地震学3」として「いろいろ 使える地理院地図」という学習 会を開催しました。

講師は元国土地理院の宇根 寛氏で、ジオパーク支援委員 会委員を含む19名が参加しま した。毎年のように進化してい る地理院地図を、実際にイン ターネットに接続しながら一つ 一つの地図の特徴を紹介、後 半では地理院地図の活用方 法を説明しました。

全国シームレスにデジタル のデータベースで管理されて いる地理院地図は、基本とな る2万5千分の1地図だと、道路 供用開始時刻に合わせて新し い道が地図上に表示できる仕 組みになっており、かつては 更新に2-3年かかっていたの が、関係機関から情報が得ら れやすい公共施設は常に新し い表示ができるそうです。

現代社会では分かりにくい 土地の成り立ちを理解するた めの地図として、戦前からの 空中写真や土地条件図、治水 地形分類図、明治期の低湿地、 活断層図、火山土地条件図な どを紹介しました。凸凹が分か りやすい赤色立体地図やアナ グリフも使える地図もあります。 「地理教育の道具箱」にある多 様なコンテンツも解説しました。 参加者アンケートでは、今後、 地理院地図を活動で使いたい という声が多く寄せられました。



幕張メッセで行われた地震学習会

## 秋季大会後、磐梯山ジオパークを巡検

2018年10月11日ま で郡山市で開催され た日本地震学会秋季 大会後の12日、ジオ パーク支援委員会主 催のジオパーク巡検 を磐梯山ジオパーク 協議会の協力を得て 実施しました。11人が 参加し、磐梯山の火 山活動や火山災害 川桁断層と猪苗代盆 地の形成、1611年の 慶長会津地震(M6.9) について学習しました。



天気が良ければ、磐梯山の山体崩 壊の地形が目の当たりにできる中 瀬沼で、竹谷氏から説明を聞く巡 検参加者。

案内をしていただいたのは、磐梯山ジオパーク協 議会の運営委員長でもある竹谷陽二郎氏(元福島 県立博物館)と、磐梯山噴火記念館館長の佐藤公 氏、磐梯山ジオパーク専門員の蓮岡真氏の3人で す。この日の天候は小雨交じりで、下見の際には 遠望できた磐梯山の1880年噴火に伴う山体崩壊 の地形はまったく見えなかったのですが、ブラタモ リ案内人を務めた佐藤氏が、噴火記念館で予定に なかった崩壊実験を披露してくれました。

山から遠い川の方に逃げたのに、崩壊後の泥流 で多くの人が犠牲になった悲劇の集落で地域の方 の話も伺い、参加した学生は「避難しなかった人々 の多くは助かったため、のちに様々な風評被害を 受けたと聞き、衝撃を受けた」と感想を述べていま した。天候が回復して猪苗代湖が一望できるように なり、東側の川桁断層と、5万年前の表磐梯の崩 壊地形の間に湖が誕生したことが分かる地形を目 の当たりにすることができました。

午後からは、1611年慶長会津地震の震源とされ る会津盆地西縁断層帯や、地震の被害が分かる 場所を見て回りました。断層帯を越えて盆地から 山間部に流れる阿賀川沿いで、地震後に盆地側 にできた湖の形成要因を巡って議論しました。活 断層図上で断層が横切っている古墳も視察し、周 囲の状況からも断層上盤側が盛り上がるバルジ地 形であることを確認しました。

古墳から数百メートル離れたところにある熊野神 社で、鎌倉時代の拝殿が地震で崩壊し、同じ材を 使って建て直された国の重要文化財を見学し、地 元の方から保全に苦労している話も伺うことができ ました。



5万年前に表磐梯が崩壊した ながれやま地形と猪苗代湖



会津盆地西縁断層が形成した盛 り上がった地形にあった古墳

## 「地震だねっと!」が起動

ジオパーク支援委員会

2017年度の学習会をきっかけに、 各地のジオパークにある断層露頭 などのフィールドで、準リアルタイ ムで周辺の地震活動をスマホで確 認できる「防災科研 地震だねっ と!」を防災科研が構築しました。 2018年の夏に第1号として糸魚川 ユネスコ世界ジオパークのフォッサ マグナパークに登場しました。その 後、日本ジオパークネットワークと 防災科研が包括連携協定を締結し、 現在5地域のジオパークとの間で、 個別に覚書を交わして利用の場を 拡げていく準備を進めているとのこ とです。



糸魚川のフォッサマグナパークの説明看板に 表示されている「地震だねっと!」の案内

## 来年10月、学会前に石垣島巡検

2020年の地震学会秋季大会は、 沖縄・那覇市で開催の予定です。 ジオパーク支援委員会は1771年 の明和の大津波で8千人以上の 方が亡くなった石垣島での巡検を 計画し、旅行会社と調整を行って います。実施日は、学会が始まる 前日の10月28日を予定し、現地 に詳しい研究者に案内を内諾して もらっています。各自、前日の27 日から島に入り、28日午後まで巡 検を行う予定です。詳細は、2020 年の秋季大会スケジュールなどと 一緒にご案内しますが、関心があ る方は、手帳などに予定を書き込 んでおいて下さいませ。

なお、2019年地震学会秋季大 会では、学会前の15日午後に、 サイエンスミュージアムとして整 備されている京大阿武山観測 所を、地元の阿武山サポーター 会の方の案内で見学しました。 また、学会後の19日には地震 学会名誉会員で日本ジオパーク 委員会前委員長の尾池和夫氏の 案内で、京大構内から続く花折断 層の地形を歩く予定で、ジオパー ク関係者らも参加する見込みです。

公益社団法人

地震学会

The Seismological Society of Japan (SSJ)